



風が弱く曇り空でした。一段高い百年の森から西の方を眺めたら鈴鹿の山並が良く見えました。尖った山が鎌ヶ岳で、北側の武平峠を挟んで御在所岳が見えます。池では今年はおオバンの数が少ないですがカンムリカイツブリは数百羽の大群が浮かんでいました。



上:ヒメジョウゴゴケ

下:ツブダイダイゴケ

両方とも岩についていました。よく名前が知られたリトマスゴケもこの仲間です。これらは菌と緑藻等の共生体で、菌類のなかまの地衣類と呼ばれています。太陽系では地球にだけ存在する貴重な土壌は、植物がまだ地上に現れる前、地衣類の遺骸と細かい砂などが混ざり合ってきたと考えられています。また大気汚染などの環境の変化に敏感なので環境を知る指標として用いることができ、ウメノキゴケの分布が空気の汚れ具合を示すことが分かっています。



ヒツジゴケ

岩についていたもの。苔は光合成を行う緑色植物です。根のように見える仮根は水を吸収する力が弱く水分や無機塩類を体表から吸収しています。



カラの混群

上:エナガ、下:シジュウカラ

小鳥が種をこえて群をつくり多くの眼で安全を確かめ合っているようです。今年はおエナガやメジロが多く見られシジュウカラやヤマガラ、コゲラも姿を見せます。エナガは警戒心がそれほど強くないと見ていると近くに寄ってきます。意外な鳥が現れることもあります。



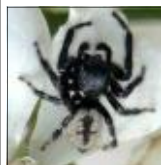
ウヅキコモリグモ

枯れ木の陰にいました。一年を通してみられます。春になると雌が卵のうをお尻につけて歩く姿が見られるようになります。孵化したコグモを背中に乗せます。



ネコハエトリ

体長 7-8mm の雌。木の皮の隙間に細い糸を張ってふわふわの居室を作った中でじ



っとしてました。

← 雄



ヤマノイモ種

実には 3 枚の翼があり、そこを開くと種が見えます。種には薄い翼があるので風に飛ばされて広がっていきます。



テイカズラ

実は細長く 20cm くらいありました。いつ



種が飛ぶかなと毎回見ていました。やっと白毛をつけた実が枯れ葉が厚く積もった上で見つかりました。花は 5 月末頃に咲きよい香りがします。



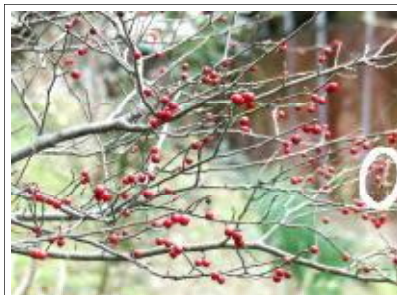
叢・ヒモミノガの一種

桜の樹皮で見つかったもので、太さ 2mm、長さ 40mm くらいです。みの虫の一種です。地衣類などをたべると考えられています。まだ学名が定まっていない未記載種です。



?何か分からないもの

横幅 5mm、縦幅 1mm くらいで何本も筋が入っています。蜘蛛?他の昆虫?中は卵か蛹のような気がします。木の樹皮の隙間は冬越しの生き物によく利用されています。



ウメモドキの実

○:まだいたジョロウグモ。

植物 オオジシバリ、スイセン、ヤエムグラ、ミドリハコベ、オニノゲシ、チガヤほける、ジュウガツザクラ、シュロ、実(ツブラジイ、クチナシ、マンリョウ、ウメモドキ、カナメモチ、アオキ、イボタ、ヘクソカズラ、ヤマノイモ、テイカズラ、スイカズラ)、冬芽(ソメイヨシノとヤマザクラ、ヤマモモ雄花、ヒサカキ雄花、サンゴジュ)、**昆虫** みの虫(ヒモミノガ)、キマダラカメムシ、アミガサハゴロモ外来種産卵痕、ムネアカアワフキ巢の痕、セミの羽化殻(アブラゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ)、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、ヤマトシロアリ、ヒメベッコウの育房、コマユバチ類羽化殻、ハエの一種、アカムカデ類、イシムカデ類、巻き貝類、**蜘蛛** ジョロウグモと卵のう多数、チュウガタシロカネグモ幼体、ネコハエトリ、アシナガグモ、ウヅキコモリグモ、**鳥、その他** ハシボソガラス、ハシブトガラス、メジロ、シジュウカラ、エナガ、カワラヒワ、ジョウビタキ雄、ツグミ声、コゲラと開けた穴、カワウ、カルガモ、オオバン、カンムリカイツブリ群、ホシハジロ、キンクロハジロ、マガモ、虫瘤(コナラの殻斗)

次回:2月8日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円